

# 私の紙面批評

弁護士  
清源万里子

## 子どものSOSに対応



(きよなかと・まりこ) 1981年、中津市生まれ。2008年弁護士登録。11年大分県弁護士会入会。九州弁護士会連合会・犯罪被害者の支援に関する連絡協議会委員。現在、子育て真っ最中。

全国の児童相談所での児童虐待に関する相談対応件数は、厚生労働省の統計によると児童虐待防止法施行前の1999年度は1万1631件だったが、2013年度は7万3802件と15年間で約6・3倍に増加している。虐待によって子どもが死亡した件数も高い水準で推移している。これを

を直接受け止め、適切な対応をしていくのが狙いである。このような子どもたちをSOSと支援、救済などに関する新聞掲載はとて

有益である。

ところで、東京弁護士会が1994年から制作し、弁護士が子どもと一緒に出演する創作劇シリーズ「水準で推移している。これがれた翼」のパート9として

大人の社会に見捨てられた孤独な子どもたち。心を閉ざす彼らの健全な育成には家庭・学校・地域社会の連携が必要不可欠である。子どもたちの発信するSOS

までにも述べたが、私たちが大人は21世紀を担う人類共通の宝である子どもたちの健全な育成に真摯に取り組まなければならない。

本紙5月14日付の夕刊には、県弁護士会が開設した無料電話相談「子どもの権利110番」の記事が掲載されている。この110番の取り組みは、法律の専門家がおいた子ども支援を期待している。

2002年に上演された「こちら、カリヨン子どもセンター」。この芝居がきっかけとなり、04年6月にNPO法人カリヨン子どもセンターが設立され、日本でもシェルターが立ち上り、全国で次々と集、紙面上での提供が今後

既に県や市町村、各校のPTA、子ども会、健全育成協議会、要保護児童対策地域協議会など、子どもたちを取り巻く関係機関は、さまざまな場面で連携の強化を図るとともに、試行錯誤を重ねながら活動している。このような連携強化や諸活動についての情報の収集、紙面上での提供が今後